



栃木県立足利南高等学校

令和2年度 総合学科通信 第3号

No.58
(2021/3/24 発行)

目標に向かって、未来へ

校長 加藤 健



今年度の総合学科発表会は、令和3年1月16日に開催されました。新型コロナウイルスの感染防止のため日程が短縮され、課題研究発表会を午前中に行い、講座発表会は展示のみの実施となりました。第一体育館で行われた発表会は、密集を避けるために3年次生のみが参加し、1、2年次生は事前に録画された発表を教室で視聴する形をとりました。例年のように保護者や中学生の皆さんを招いて盛大に実施することはできなかったものの、発表者とフロアの生徒との間で活発な質疑応答がなされる場面もあり、今年も足南生にとって大切な学びの場となりました。

ところで、発表会のときにもお話ししましたが、これから何かに取り組み成果を上げようとするとき、「問題」と「課題」という言葉の違いを押さえておくといよいでしょう。

物事には「現状」があります。「現状」は、今どうなっているのか、現在の自分の状態などです。それに対して、「目標」があります。「目標」は、どうなりたいのか、未来の自分の姿などです。この二つには当然ギャップがあり、それが「問題」です。「問題」は、目標と現状の差、解決すべき事柄のことです。一方、「課題」とは、目標と現状の差を埋めるために(「問題」の解決のために)やるべきこと、やると決めたことです。つまり、「問題」というのは、現状と目標に差が発生しているという事実のことであり、「課題」というのは、その差を埋めるための「行動」を意味しているのです。

このような関係を総合学科の本校の学習に当てはめると、1年次生の「ライフプラン」は、自分の目標と現状の差を解決すべき問題ととらえ、これから頑張る問題と解くぞという「決意表明」ということになります。2年次生の「ミニ課題研究」は、ライフプランを踏まえて実際に課題を設定したり、調べ学習を通して課題達成に必要な情報を収集・整理したりする、「課題研究」の前の「予備的研究」という位置づけになります。そして、3年次生の「課題研究」は、自ら適切な課題を設定し、研究の方法を整えて、調査や実験、実習や制作等に取り組み、そこで得た結果や経験をもとに考察して、問題解決のための新たな知識や方法を獲得していく「探求活動」(行動)ということになります。つまり、「課題研究」は、課題の達成を通して自らの目標に近づいていくチャレンジ・挑戦そのもののなのです。

このような三年間の学びを通して、生徒のみなさん一人一人が、自分の未来をたくましく切り開いていくことを心から願っています。“Challenge to Change” 応援しています。

「産業社会と人間」の学びを振り返って

1学年主任 田部井 正代



総合学科必修の「産業社会と人間」の授業(2単位)は、自身の過去を振り返りつつ、現在から将来を見通し、自ら進路を切り開く力を身につけることを目標として、毎週金曜日の5、6時限目に実施しています。この授業の中で学べるべきことは盛り沢山で、2ヶ月遅れでスタートした今年度は、コロナ対策にも気を遣いながら、例年同様の学習効果を上げられるよう創意工夫の連続でした。2月1日にアンケートを実施しましたが、どの学習プログラムも7割以上の生徒が、「役に立った」または「少し役に立った」と回答してくれています。また、授業全体の感想では、「自分と向き合える大切な時間でした。大学調べもまだまだ先だと思っていましたが、調べたことにより勉強の大切さが学べました。また、ライフプランでは、自分の思っていることを書いて、発表をして、自分になんだか自信がついたような気がしました。」など、好意的なものも多くありました。

さて、2年次の「総合探究Ⅰ」の授業(1単位)では、1年次の「産業社会と人間」で培ったさまざまな力を発展させ、総合学科の学びの集大成である3年次の「課題研究」の準備学習を行う予定です。自身の興味関心や進路希望をしっかり意識し、主体的に学ぶことを期待しています。

ステップアップ

2学年主任 谷 昌範



2年次生は、今年一年間「総合探究Ⅰ」にて総合学科の学びを深めていきました。

学年当初には「ミニ課題研究」として、3年次の課題研究の足掛かりとなる研究を、コロナ禍の少ない時間ながら各人が短期間で集中して調査・探求し、発表まで行いました。さらに、行くはずだった沖縄や北海道の修学旅行の事前学習も十分に行いました。事前学習を通してそれぞれの文化や歴史、風習などを学べたことは、今後の人生の中で活かせるものばかりだと思います。

学年の後半は3年次の「総合探究Ⅱ」に向けて、時間をかけて課題研究のテーマ設定を行ってきました。担任・副担任はもとより、系列の先生方ともヒアリングを重ね、万全の準備をしてきました。あとは、そのテーマをどれだけ深く掘り下げて研究できるか、研究したものをどのように分かりやすくプレゼンテーションできるかは、生徒たちに懸かっています。次年度の課題研究スタッフも十分に生徒をサポートしますが、総合学科3年次生として今以上にステップアップをし、たくさんの学びの中で実りある課題研究をして欲しいと願っています。そして、来年の今頃は、幅広い見識と足南で培ってきた経験を糧に、社会に有為な人材となっていることを信じています。

卒業式を終えて

3学年主任 厚木 範之



令和3年(2021)年3月1日月曜日(赤口)、第43回の卒業式が挙行され、総合学科第19期生147名が足利南高校を巣立っていきました。

在校生が参加しないというコロナ禍でも今年の卒業式では在校生代表の送辞と卒業生代表の答辞が行われ、時短の中での卒業式でも生徒たちにとって人生の節目となる卒業式が執り行うことができ、3学年一同大変ありがたく思っています。

思い返せば、最終学年である3年次の1年は4月から2ヶ月にわたる休校から始まりました。休校期間中には、誰一人も経験したことのない長期にわたる休校期間中、生徒たちが不安を感じていた進路指導も分散登校で複数回にわたって開催しました。不慣れな時間での登校など生徒たちは文句一つ言わず素直に受け入れ、熱心に話を聞き、それぞれの進路を考え始めました。学校再開後においてもコロナ感染予防下での学校生活のため高校生として最後の思い出となるべき前期スポーツデー、青南祭、といった大きな学校行事も中止となってしまうなど制限の多いコロナ禍での高校生活で我慢を強いた1年でしたが生徒たちは気持ちを切り替えて生活してくれました。例年とは違った就職試験、入学試験を無事に乗り越え、それぞれが希望する進路の実現を果たし、過去2年間中止のため最初で最後となったマラソン大会では未知の11キロを最後まで走り抜き、12月実施のスポーツデーではクラスの仲間と協力し合って持てる力を存分に発揮してくれました。

4月からはそれぞれが選んだ道に進んでいきます。それは一人一人が悩み考えそして努力してつかみ取った道です。選んだ先には思いがけない困難も待ち受けていることと思います。そんなとき、総合学科の足利南高校とともに頑張ってきた仲間の存在やこれまでの生活が支えになってくれると思います。

足南生は「できない」じゃなくて、「やってない」のです。「わからない」じゃなくて、「考えてない」のです。限界を決めるのは、いつだって自分自身です。からどう向き合うかで世界は変わってきます。自分自身の可能性を、いちばん知らないのは、みなさん自身です。19期生のみなさんの大いなる活躍を期待しています。



総合学科発表会

学習指導部長 森 紀子

令和3年1月16日(土)、令和2年度総合学科発表会が行われました。コロナ禍での開催ということで感染予防策を講じての実施となりました。

第1体育館には3年生だけが入り、ステージで産業社会と人間・総合探究Ⅰ・総合学習Ⅱの代表者による発表が行われました。1年生は自分の描く進路や人生設計をまとめた「ライフプラン」を、2年生は「ミニ課題研究」を、3年生は各系列の代表10名が「課題研究」を発表しました。國學院大學栃木短期大学の藤掛登先生をお招きし、講評をいただくことができました。

1、2年生はそれぞれの教室で、事前に録画されたステージ発表の動画を視聴しました。この日の発表会を目指し、生徒たちは休校明けから取り組みを始めました。例年より遅いスタートで、発表までに準備が十分に整うの心配もありましたが、これまでの学習をもとに十分な成果を発表できたと思います。今年は、講座発表会のステージ発表は中止し、作品展示のみ第2体育館で実施しました。美術・書道・家庭科の作品は力作がそろい、鑑賞する生徒たちからは「もっとゆっくり鑑賞したかった」との声が聞かれました。また、外部からの見学にいらっしゃるお客様の入場を制限しましたが、代わりにYouTubeでのライブ配信を行い、アクセス数は219に上りました。

来年度の総合学科発表会がどのような形で開催されるかわかりませんが、さらに素晴らしい成果を発表できるよう指導を続けてまいりたいと思います。



コロナ禍での生徒会活動

特別活動部長 春日 幸市



今年度の生徒会活動は、コロナの影響で多くの行事が放送によるものでした。6月から学校が再開し、6月8日(月)各種委員会は通常実施し、6月12日(金)第1回評議会を第2体育館で間隔を空けて実施し、6月16日(火)前期生徒総会は放送により実施しました。また、4月に1年次生向けの生徒会オリエンテーションによる部活動紹介が十分でなかったため、6月8日(月)～11(木)の昼休みに放送による部活動紹介を行いました。8月31日(月)～9月4日(金)九州豪雨災害義援金募金活動を行い、13,598円を日本赤十字社へ寄付しました。10月15日(木)各種委員会を通常実施し、10月19日(月)第2回評議会を第2体育館で間隔を空けて実施し、11月9日(月)後期生徒総会

は放送により実施しました。前期生徒総会では、コロナの影響で日程の都合上「生徒会への要望」を取り上げることができませんでしたが、後期生徒総会では議題にできた。10月12日(月)生徒会役員選挙立会演説会・投票を実施しました。11月4日(水)・5日(木)赤い羽根募金活動を行いました。コロナで行事が中止になっていましたが、12月16日(水)スポーツデーを実施し、男子がサッカー、女子がバレーボールを行いました。来年度はコロナ対策をしながら、より充実した生徒会活動を行いたいと思います。



活躍する足南生

～全国大会出場 スキー～

1年4組北詰怜那さんについては、栃木県代表選手として2月4日(木)から10日(水)まで長野県飯山市の戸狩温泉スキー場にて行われた第70回全国高等学校スキー大会にアルペン競技のスラロームとジャイアントスラロームの2種目に出場しました。

「インターハイスキー大会に参加して」



コロナウイルスの影響で他のスポーツが中止になる中、インターハイスキー大会のアルペン競技は開催することができてとても嬉しく思います。

大会では自分が思うような滑りができず、残念な気持ちでいっぱいです。今回は自分の努力不足ということが身に染み、弱点が出た試合となりました。そして、実力が大いに発揮できず、終わってしまったことを悔しく思います。今後、自分に足りないところを補い、本番で自分の滑りが出来る選手になりたいです。そのため

には今回の大会の悔しい気持ちを忘れず、来年に向けて練習を頑張りたいと思います。

最後に、忙しい中付き添ってくださった先生方を始め、コーチ、保護者とたくさんの人の協力があって全国大会出場という経験ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

1年4組 北詰 怜那(足北中)



～写真部～

写真部顧問 篠崎 早苗



行事の時には一眼レフを構え記録写真を撮る写真部員たちは、部員数22名で活動しています。今年度は、ファインダー越しにいろいろな角度から自分たちのことや、家族のこと、足利市のことを見つめ、考える年となりました。

春、コロナ禍のため、足利市高等学校写真部会(APC)写真展も残念ながら中止となり、撮りためていた写真も未発表のまま、発表の機会を探っていました。夏には、撮影技術を磨くため、雨上がりの饒阿寺で「水」や「夏休み」をテーマに撮影会を行い、互いに講評したり、APC講習会ではポートレートやテーブルフォトの技術を学んだ

りしました。秋からは、発表の場は自分たちで作ろうと、東側2階通路に展示をはじめました。友人や家族、何気ない風景、眺めているとほっとするほど発見のある写真が様々あります。

また足利市役所からの依頼で、市制100周年に向けた足利シティプロモーションに参加しました。シティプロモーションのInstagramへの投稿や、足利市新ロゴマークへの意見交換会へ参加させていただきました。高校生らしい足利への思いを伝え、足利の風景や人、食べ物、日常のひとときの1枚から、足利の魅力を見つめなおす良い機会となりました。一年を振り返り、活躍の場をいただけたことに感謝します。今後も部員たちの思いが形になるように、成長し続ける写真部を応援いただければと思います。



発行：栃木県立足利南高等学校

教務部広報係

TEL：0284-72-3119(事務室)

FAX：0284-73-2772

TEL：0284-72-3118(職員室)

http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikagaminami/nc2/index.php?action=pages_view_main

